

虚偽への対策：全体像

合理的コミュニティの条件（コミュニティにおいて虚偽を減らすための方策）

不正のトライアングルへの影響

個人のレベルで適用できるか

| カテゴリー | | 説明・具体的な施策（例） | 動機 | 正当化 | 機会 | 個人のレベルで適用できるか | |
|--|----------------|---|--|-----|----|---|---|
|  人材 虚偽を犯さない人でコミュニティを構成する | 採用 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティをオープンにしない ・採用時のバックグラウンドチェック | ○ | - | - | できない | |
| | 教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・虚偽（広義にはコミュニティで許されない行為）を定義し、周知徹底する | ○ | ○ | - | <ul style="list-style-type: none"> ・できる - ついてはいけない嘘を理解する、など | |
| | 罰則の仕組み（新陳代謝） | <ul style="list-style-type: none"> ・虚偽を犯した者を罰する ・重大な虚偽を犯した者はコミュニティから排除する | ○ | ○ | - | できない | |
|  環境・文化 虚偽を犯そうと思わない環境・文化を形成する | 動機の低減 | <ul style="list-style-type: none"> ・過度なノルマなどの、虚偽の動機となる要因を減らす - 成果より公正さを優先することを明確にする | ○ | - | - | <ul style="list-style-type: none"> ・できる - 金銭的に自立する、など | |
| | 公正で透明な評価・報酬制度 | <ul style="list-style-type: none"> ・評価を公平で透明性のあるものにし、報酬・地位をそれに紐づける | ○ | ○ | - | できない | |
| | オープンなコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・立場に関係なく安心して意見を言い合える環境・文化を形成する | ○ | ○ | - | | |
|  プロセス 虚偽を犯しにくいプロセスを設計する | 職務分掌の明確化 | 虚偽のリスク・インパクト評価 （プロセスごと） | <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりに重要なプロセスのすべてを担当させない | - | - | ○ | できない |
| | ローテーション制度 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりに同じプロセスを長期間担当させない | - | - | ○ | |
| | ITの利用 | | <ul style="list-style-type: none"> ・権限のある者しかデータ入力できないようにする ・変更のログを残す | - | - | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・コストを受け入れればできる - 例：オープンサイエンス |
| | プロセスの透明化 | | <ul style="list-style-type: none"> ・生データや分析ロジックを公開する | - | - | ○ | |
|  モニタリング 個別の虚偽を発見するプロセスや、全体の虚偽対策を推進する仕組みを作る | 内部 | 内部通報制度（ヘルプライン） | <ul style="list-style-type: none"> ・虚偽を発見したメンバーが安心して通報できる窓口を設置する - 告発者の匿名性を守り、保護する | ○ | - | ○ | できない |
| | | 担当部署の設置 | <ul style="list-style-type: none"> ・この表にある活動全体をリードする専門部隊を作る - コンプライアンス委員会など | ○ | ○ | ○ | |
| | | 内部監査 | <ul style="list-style-type: none"> ・上記の活動が適切に運用されているかをチェックする | ○ | ○ | ○ | |
| | 外部監査 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ外の人間によるチェック | ○ | ○ | ○ | | |